

## 仕事と両立させるために 増える男性の介護離職者

高齢者人口の増加とともに、介護保険制度上の要支援・要介護認定者数は増加しており、今後、団塊世代が70歳代に突入することに伴いその傾向は続くことが見込まれます。

介護者は、とりわけ働き盛り世代の男性で、職場の中核を担う立場であることが多く、企業において管理職として活躍する人や職責の重い仕事に従事する人も少なくありません。

そうした中、介護は育児と異なり突発的に問題が発生することや、介護を行う期間・方策も多種多様であることから、仕事と介護の両立が困難となることも考えられます。

継続的に介護を行うためには、経済的な負担がかかります。また、介護が終了した後の生活を視野に入れて考えても、経済的基盤は重要です。介護に直面しても、すぐに退職することなく、仕事と介護を両立するための制度を活用して、仕事を続けながら介護をすることが大切です。

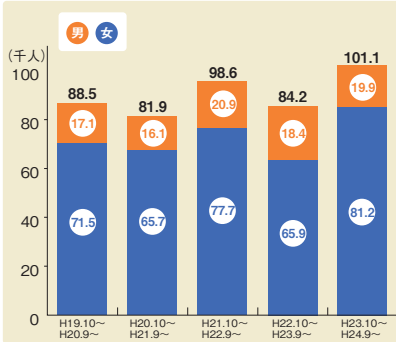
### 仕事と介護の両立に向けて

厚生労働省が2013年度にまとめた「仕事と介護の両立支援対応策モデル」で紹介している事例からは、介護について職場の理解や協力を得ることで、気持ちにゆとりがで

き、さらには自分の時間ともメリハリをつけることができた例など、離職せずに仕事と介護を両立することのメリットが紹介されています。同モデルでは、こうした事例を踏まえ、両立のためのポイントを次の5点に整理しています。

- 1 職場に「家族等の介護を行っている」ことを伝え、必要に応じて勤務先の「仕事と介護の両立支援制度を利用」する。
  - 2 介護保険サービスを利用し、自分で「介護をしすぎない」。
  - 3 ケアマネジャーに何でも相談する。
  - 4 日ごろから「家族と良好な関係」を築く。
  - 5 介護を深刻に捉えすぎずに「自分の時間を確保」する。
- 地域包括支援センター等、介護に関する機関への早めの相談、本を読むなど情報を得ておくことが「いざ」という時の力になるのではないのでしょうか。
- (野口)

介護・看護離職者人口(15歳以上)の推移



出所 総務省「平成24年就業構造基本調査」

## Books

アイレックで借りることができます

### 『迫りくる「息子介護」の時代 28人の現場から』

平山亮／解説 上野千鶴子／光文社  
息子が親を介護する時代。当事者たちの声と心の機微が、細やかに読み解かれ、思わず納得。  
(堀)



### 『オトコの介護を生きるあなたへ 男性介護者100万人へのメッセージ』

男性介護者と支援者の全国ネットワーククリエイツかもがわ  
介護は家族任せではなく、介護する家族を支えることだと気づかされます。  
(近藤)

### 男の介護



## 「グループホームゆうゆ」訪問



ホーム長の森田さん

認知症高齢者グループホームは、認知症の高齢者が、家庭的な環境と地域住民との交流の下、介護スタッフのサポートを受けながら5〜9人の少数ユニット共同生活をする場です。食事や入浴などの日常生活上の支援や、機能訓練などのサービスを受けられます。

現在清瀬市には5つのグループホームがあります。その中の一つ「グループホームゆうゆ」にお邪魔したのは、入居者の皆さんがちょうど散歩に出られる時間でした。温かい冬晴れの中、ホームの周辺を歩いてこられたようです。

「入居者の皆さん自身が作る『新しい家庭』でもあり、できるだけ皆さんが主役となり一日一日ゆとりと、それぞれのペースで暮らして欲しい。私たち職員も、皆さんがつくる『新しい家庭』の一人として一緒に暮らしていきたいと考えています。お話を伺ったホーム長の森田さんの言葉が印象的でした。  
(野口)